令和３年―４年度期 第４回 世田谷区子ども・青少年協議会 会議録

■開催日時

令和４年８月３０日（火）１４時３０分～１６時３０分

■開催場所

デイ・ホーム世田谷

■出席委員

入澤充　志村健一　阿久津皇　高橋昭彦　中山みずほ　田中優子　林大介

森岡美佳　明石眞弓　岡﨑美恵子　藤原由佳　勢能克彦　田谷雅弘　渡邉明宣

廣岡武明　下村一　奥村啓　新井佑　増田名那　中谷友美

■事務局

子ども・若者部長　柳澤純　　児童相談所長　土橋俊彦　　生涯学習部長　内田潤一

子ども・若者支援課長　嶋津武則　　子ども家庭課長　小松大泰

児童相談支援課長　木田良徳

■会議公開の可否

公開

■傍聴人

１人

■会議次第

１　開　会

２　議事

（１）小委員会検討状況の報告

（２）「若者とともに変わる地域～若者の視点で」実現に向けたモデル事業の実施について

３　その他

４　閉　会

午後２時30分開会

〇嶋津子ども・若者支援課長　定刻になりましたので、令和３年－４年度期第４回世田谷区子ども・青少年協議会を開会いたします。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

議事に入るまでの間、事務局として進行を務めさせていただきます、私、子ども・若者支援課長の嶋津と申します。どうぞよろしくお願いします。

開催に当たりまして一言、子ども・若者部長の柳澤より御挨拶申し上げます。

〇柳澤子ども・若者部長　こんにちは。子ども・若者部長の柳澤でございます。皆様におかれましては、お忙しい中、今回の第４回子ども・青少年協議会に御出席いただきましてありがとうございます。

昨年の６月から今期の協議会を進めさせていただいておりますけれども、「若者とともに変わる地域～若者の視点で」というテーマで検討いただいているところでございます。今期も４回目となりました。協議会での議論を基に小委員会や、取組に御賛同いただいている若者の皆様が様々な取組に御挑戦いただいていると伺ってございます。３月の協議会以降の検討状況と取組の内容を共有していただきまして、現状の課題、それから今後の取組について、さらに議論を深めていただければと思ってございます。委員の皆様の活発な御議論をよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

〇嶋津子ども・若者支援課長　それでは、本日の協議会の出欠の状況でございます。

本日は、事前に白井進委員、開発一博委員、栄裕美委員、平田和英委員、森嶌正巳委員、近藤三知香委員、丹羽有彩委員の計７名から欠席の御連絡をいただいております。委員は２分の１以上ということで御出席いただいておりますので、本日の会議は成立しております。

続きまして、協議会は、会議録を作成するに当たりまして正確を期するということで、速記者を出席させていただくことを御了承いただきたいと思っております。御発言の際には事務局よりマイクをお渡ししますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、初めに新任委員の御紹介をさせていただきます。若者委員が１名増員となりましたので御紹介いたします。小委員会の商店街チームの活動に御参加いただいている中谷友美様に７月１日付で若者委員として御就任いただくことになりました。御挨拶をよろ

しくお願いします。

○委員　こんにちは。７月から青少年協議会の若者委員として参加させていただくことになりました。３月のまち歩きから商店街チーム様のイベントとかに参加して、今も一緒にチームの一員としてイベントを行ったり、これからどうしようかという会議をさせていただいています。

私個人としては、高校生の頃から若者が本音で語り合える場をつくりたいという思いで活動をしていて、アップスの下村さんとかには高校生の頃からお世話になっていたんですけれども、アップスさんをお借りしてイベントを開催したりなどしていました。これから頑張りたいと思うのでよろしくお願いします。（拍手）

○嶋津子ども・若者支援課長　ありがとうございました。

なお、本日御欠席ですが、今年度から協議会委員になられた方が５名いらっしゃいますので、事務局から口頭ですが御紹介させていただきます。青少年上野毛地区委員会会長、白井進様、世田谷区立小学校ＰＴＡ連合協議会会長、開発一博様、世田谷区立中学校ＰＴＡ連合協議会会長、栄裕美様、東京保護観察所保護観察官、平田和英様、『情熱せたがや、始めました。』運営委託事業者代表の森嶌正巳様。以上で新任委員の紹介は終わらせていただきます。

続いて、本日の資料でございますが、次第に記載のとおりでございます。不足、不備等がございましたら係員までお知らせいただきたいと思います。

それでは、本日の議事に移らせていただきたいと思います。これより先は入澤会長へ進行を引き継がせていただきます。会長、よろしくお願いいたします。

○会長　入澤でございます。皆さん、こんにちは。令和３年－４年度期世田谷区子ども・青少年協議会の検討テーマ、先ほど部長が言われたとおり、「若者とともに変わる地域～若者の視点で」ということで、小委員会を結成して御議論いただいております。今日、その小委員会で御議論いただいたことを披露していただき、議論を深めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先日、ネットを見ていて、内閣府が今年の３月に「子ども・若者総合調査」の実施に向けた調査研究の結果を公表していたんですが、そこで、次の場所でほっとできる場所、居心地のよい場所はどれかという質問で、小学生と中学生に分けて回答を求めていたんですが、「地域」と答えたのは、小学生では69.1％、中学生では64.6％。「学校」と答えたのは、小学生が79％います。それから中学生は74.2％とある。ただ、気になるのは、

「インターネット空間」が居心地がいいという中学生が74％もいるんです。小学生も63％いるんですね。昨日の朝日新聞では学校がしんどいという子どもの問題が出ており、今日の毎日新聞では「夏休み明けの『不安』とコロナ禍の『孤独』」という子どもの問題があるんです。

このような中で、本協議会は、商店街チームと学校チームに分かれて、それぞれの知見を基にして議論いただいております。この小委員会での議論と本協議会が目指す着地点というものは、学校や商店街での活動を通して、子ども・若者自身も成長し、地域も活性化していくということにつながればいいなと思っています。それを具体的にどう取り組んでいくかということを、今回もまた活発な議論をしていただきながら進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会に入らせていただきます。３月開催の第３回協議会以降、「若者とともに変わる地域～若者の視点で」のテーマということで、小委員会では、学校チーム、商店街チームの２つのモデル事業を構想しております。主体や対象、実施内容、手法等を検討し、具体化に向けて調整を進めてきていただいておりますので、本日は、その進捗状況を御報告いただくことと併せて、その事業に対する御意見等を皆様からいただいて、中身を濃くしていきたいと思います。

それでは、まず全体の議論の状況について、委員長から御説明をお願いいたします。

○副会長　小委員会の委員長を仰せつかっております。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいま会長から御案内をいただきましたけれども、私たちのほうでは小委員会という形で具体的な動きを伴いながら、このテーマについて考えを深めてまいりました。資料２を御覧いただきまして、３番を見ていただきますと、検討経過ということで記載をさせていただいております。第１回の協議会で、区長より「若者とともに変わる地域～若者の視点で」というテーマをいただきまして、その後、小委員会では、このテーマについての共通理解を深めるというようなところからスタートを始めたわけです。一体この若者というのは誰なのか、地域というのは一体どこにあるのか。会長から、地域を居心地のいい場所ということで挙げている小学生、中学生がいるようですけれども、この地域とは一体どこにあるのかというような共通認識等々も含めて、いろいろと話合いを進めていったわけでございます。

資料３を見ていただきますと、具体的に小委員会がどのような形で進んできたのかとい

うことを見ていただくことができるかと思います。ちょうど１年前から少しずつ議論を深めまして、小委員会では、世田谷区内の施設を使わせていただき、その施設の機能等を理解することなどを目的に施設見学などを最初にやらせていただきまして、子どもたちが過ごしている現場を会場に会議を進めてきたということもございました。

また、年が明けてからは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりオンラインでの開催を余儀なくされたということもありましたけれども、皆さん積極的に、オンラインであったとしても意見交換をしていただきまして、何とかこの令和３年度中に１つでも２つでもいいのでやりたいという思いを持って進めました。その結果、詳細はこの後、学校チーム、商店街チームから御報告いただけるかと思いますけれども、出張アップスという形、あるいは下北沢駅周辺のまち歩きというイベントを３月中に実施することができたということになっております。

この動きを踏まえまして、全体会が３月に開催されたわけですけれども、年度が替わって以降も、話合いやそれぞれのチームに分かれての活動を続けていただいておりまして、第２回の出張アップスが５月、そして商店街チームは下北沢音楽祭の際に並行してイベントを開催させていただくというような形になりました。この中で非常に生き生きとした若者たちの声を拾い上げることができ、こういった若者たちの声、あるいは出張アップスでの子どもたちの様子などが小委員会を進めていくに当たっての非常に大きなエネルギーになっているのかなと私自身は感じているところでございます。

今回が第４回目の全体の協議会ということになっておりますけれども、この後、小委員会のほうではこれまで開催をしてきましたモデル事業をさらに進めながら、あるいは、できるところは広めていきながら、今年度の着地点に向けて話合いを持っていきたいと考えているところでございます。

具体的には、先ほど入澤先生から御案内がありましたけれども、学校と商店街という２つのチームに分かれて、それぞれの興味関心や強みを生かすモデル事業を進めていただきましたので、それぞれのチームの方から活動の御報告をいただけるとよろしいかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長　どうもありがとうございました。

それでは、各グループからの報告に移りたいと思います。まずは、学校チームの活動について、よろしくお願いいたします。

○委員　資料２の２枚目を御覧ください。

学校チームですけれども、前期の子ども・青少年協議会のときに学校カフェに関する議論がありましたが、実際にはモデル事業ができなかったというところ、それから、今期のテーマである「若者とともに変わる地域～若者の視点で」といったときに、やはり若者と地域の方の接点がいっぱいあるということがひとつそこにつながるであろうというところで、若者が多く行っている学校に地域の方が出向くという校内カフェ的なことが非常に有効ではないかということで、今回モデル事業をやらせていただいています。

ただし、学校の中に地域が入るというのはなかなか難しい面もありまして、やっぱり学校の教職員の方々の御理解であるとか、どんなところに目的があるのか、それから、学校は基本的にはいろんな指導をする場所ですけれども、そこに地域の対話の空間みたいな、ちょっと学校の雰囲気と違うものを持ち込まなきゃいけないというところで、丁寧に準備をしていく必要があり、アップスの運営委員に近隣の中学校の校長先生がなっていただいていましたので、その校長先生を通じて船橋希望中で２回、出張アップスという形で校内カフェ的なことをやらせていただいたという形です。

先生とは、事前にお話をさせていただいたり、教職員の会議に御説明に上がったりということを経て、３月22日にまず１回目の出張アップスを実施いたしました。アップスの職員が２名とアップスのインターン１名、青少年協議会委員のメンバーにお１人加わっていただいて、モデル的に実施したという形です。

学校側もいろいろな思いがありまして、少し静かな空間、一般の生徒さんがあんまり来ないような空間がいいんじゃないかというところで、少し小さめのふだん使っていない会議室を貸していただいて、そこに少しでも若者がリラックスできるような空間をつくりたいということで、テーブルクロスを持っていったり、いろんなゲームとか雑誌とか楽器とかを持ち込んで実施をしたという形です。

１回目は、８人程度の若者が中に入ってくれて、実際には部活と部活の合間みたいな、本当に短い時間だけれどもちょっと話しに来るというのがすごく印象的だったなと感じています。中学生はかなり忙しいんだなというのは我々も実感しました。

２回目は、５月16日に同じ時間帯に実施しました。このときは１年生から３年生まで全てそろっているというような形でした。３月よりも少し時間に余裕を持って、事前に各教室にポスターを貼らせていただいたということがあって、実際に中に入った若者は10人ぐらいですけれども、入り口に来て何をやっているんだろうとか、インターンとちょっと話したりという生徒さんを含めると30名程度が御参加いただいたという形です。

実施した後に、校長先生と打合せをさせていただいて、学校で決まっているルールと出張アップスでやっているものに違いがある等、幾つか課題は出ましたけれども、その課題は１つずつクリアしようというお話しをしました。

さらに、学校側の期待として、学校に行きたいんだけれども、なかなか学校に足が向かない子たちの一つのきっかけになったらいいなということは、学校側の思いとしてすごくあって、９月以降にまた２回出張アップスをやろうと今お話をしていますけれども、１回はあえて学校のやっていない土日にやろうと。そこで学校に来られていない子たちにも広報をして、そういう子が少し来られるきっかけになったらと。もう１回については、アップス側としては広くやりたいというところがあるので、昇降口の外にある空間を使って、みんなが何となく、あっ、出張アップスを今日はやっているんだと分かるような空間で実施しようということで、２種類の事業を９月以降に実施しようとお話をしているところです。

それから、小委員会の中で、中学校は船橋希望中でアプローチをしているけれども、それを少しずつ広げていくというところを今後の課題にしていましたけれども、やはり高校でも実施する意味があるんじゃないかということで、高校についても少し検討を始めました。

比較的地域との活動に熱心に取り組まれている大東学園さんに青少年協議会委員のメンバーでお願いに上がり、一応学校のほうではお受けくださることになっていますけれども、基本的にはやっぱり教職員の方に理解を深めていかなきゃいけないので、企画書をお持ちいただきたいというような形で、９月になりましたら企画書を持ってまた御説明に上がる予定です。

校長先生は横浜でやっている校内カフェについて御存じでしたので、イベント的に実施するということではなくて、何にもしないでもいられるような居場所としての校内カフェをやって、その校内カフェが、まず１回やって、２回目からは若者の意見を聞きながら、もっとこんな空間をつくろうよとかと若者がそこの空間づくりにも携わってもらえると、今回のモデル事業としては非常に意味があるんじゃないかなというお話しをしています。

○会長　ありがとうございました。

報告を先に進めていきたいと思います。続いて、商店街チームの活動について、お願いいたします。

○委員　商店街チームでございますが、若者の「やりたい」を地域商店街で実現しようと

いうことで、３月21日に下北沢を舞台にまち歩きを実施いたしました。これは若者と地域の我々大人と、それから区の方とが一緒になって、同じ景色を見ながらまちの魅力を発見していくというイベントでした。

３枚目からこの資料を御覧いただければと思います。チラシなども、ここにいらっしゃる若者委員が作成していただきまして、周知しながら進めました。まち歩きの様子はこの写真などからも分かるかなと思います。ここで改めてつながってきた若者などもいらっしゃいまして、そして、つながってきた方々と今に至るまでつながり続けていきながら、企画会議というのを月に１回ないし２回開いて、何をやるか、何をやりたいかという話をしてきています。そして、ＬＩＮＥグループなんかも活用しながらコミュニケーションを続けています。

次のページになりますけれども、７月10日に下北沢音楽祭が開催されていたんですけれども、その日に駅前にスペースを借りられるというお話が入ってきまして、そこで実際に若者たちがやりたいことをやってみようじゃないかということで、イベント的にというか、その日だけのものになりますが、やってみたと。

何をやりたかったかというと、下北沢に訪れる人と交流したいという意見が皆さん多かったのと同時に、下北沢に訪れる人の役に立ちたいというような意見が皆さん共通にありまして、みんなのクチコミマップという企画、それが下北沢駅前に出現するぞということで、チラシも中谷委員がすごくすてきなものを作成していただき、実施いたしました。

これは何かというと、下北沢は、やはり古着とか食べ物とか劇場とかで非常に有名なまちなので、そういったもののお勧めを、でもなかなか入りづらいところもあるので、口コミを集めて紹介したいというのと、そこに訪れた下北沢通の人たちに自分のお勧めを書いてもらって、それを掲示していって、訪れた人にも見てもらいたい、訪れてきた人にも自分のお勧めを書いて残していってもらおうというような企画です。

写真にもありますが、ポストイットに手書きで書いてあります。事前に青少年交流センターの御協力をいただいて、そこに来てくださる若者にたくさん書いていただいて、すごいきれいなものから個性的なものから、手書きの口コミというのがなかなかユニークなものが集まりました。これは当日もどんどん集まっていくんですけれども、下北沢の商店街の代表の方が、これはこのままで終わってしまうのはもったいないので、何か形に残したら、いいものができたねというお墨つきもいただきました。

これは、この企画そのものというよりも、そもそも自分たちがつくりたい地域に自分た

ちがつくりたい場をつくってみるという実験だったわけなんですけれども、企画そのものもなかなか評価がありました。みんながこれを振り返っていただいたんですが、大人もいっぱいいたんですけれども、主体的に企画の遂行とか当日の運営が自分たちでできたというその実感がコメントとしてあったこと。反省点はいろいろあったけれども、次の意欲として、これが１回できたことは非常によかったという肯定的な意見がありました。

あと、非常に難しかったのは、まち行く人に声をかけるということなんですね。これは大人もすごく苦労したんですけれども、若い人のほうがよくできていたかもしれないんですが、なかなか知らない人に声をかけるのが難しい。でも一方で、知らない人と出会いたいという思いがみんなの中にあって、だから、出会っていく、そして交流するとか対話をすることの難しさと面白さをみんなが実感したようなイベントになったかなと思います。

このイベント以降も、具体的に何をやっていくかという企画会議を重ねてきています。内容としてはだんだん固まってきていまして、居場所をつくりたいという居場所のキーワードが非常に立ってきたのと、いろいろな世代の人と交流したい、いろんなお話がしたいということが、結構今の若い人の特徴かもしれないんですけれども、出てきています。

とはいっても、いろんな世代の人といきなりつながるのは難しいので、やっぱり自分たちに近い大学生や高校生くらいの世代に向けて、テーマを決めて、ゲストを呼んで、交流するような居場所を、できればちょっとした飲食も絡めながら、やってみたいねというのが今の話し合っている内容です。

これを実行するには、やっぱり場が必要だったり予算が必要だったりということもあって、世田谷区の皆さんが御尽力くださって、今年度あと２回ぐらいそういったものを、場を借りてできる予算を御準備いただいているのと、借りられる場所の候補が今２か所ぐらいあり、下北沢を舞台にやってきているんですが、やや離れているんですが代田方面で場所を検討しています。次回はこういった場所も見学しながら、企画をもっと詰めていこうというフェーズに入ってきています。

一連の報告は以上になるんですけれども、具体的に継続的に何をしていくかという答えを出していきたいわけなんですが、このプロセスにおいて、実際の企画会議が本当に会社の企画会議じゃないですけれども、対等にいろんな世代の人が同じ目的で話し合っていく、あと連携が生まれているということ。それから、若者の視点で地域を考えるということで、若者が本当に主体的に意見を出してくれているのと、大人がその進行を手助けしているということが起きていて、若者が主体的に参画するまちづくりのチームづくりという

ところまでは行き着けてきたのかなという感触を持っています。

この先は、これから継続的な営みにするにはどうしたらいいかということと、現在、すごく前向きに参加している若者のその先にいる多様な若者と、ネットワーク、つながって広がっていくというビジョンに対して、どのようなことを行っていくかというのはこれからの課題かなと思います。

○会長　ありがとうございました。

７月に行われた、今出ました下北沢音楽祭での商店街チームの活動をまとめた動画を開催通知と一緒に皆さんに御案内しております。ぜひ御覧いただきたいと思います。

それでは、今、商店街チームと学校チームの御報告がありましたので、討議に入りたいと思います。

モデル事業の実施、検証につきましては先ほど御報告のあった状況を踏まえて、今後、より具体的な組立てや調整を進めて、若者の意見を聞きながらまとめていくというふうに、今、藤原委員からも出てきております。課題も示されました。本日、小委員会の委員の皆様につきましては、実際に活動されての所感や課題に感じられていること、今後の展望などを御披露いただければと思います。それらを踏まえながら、協議会委員の皆様からも積極的に御意見をいただきたいと思います。特に今期テーマ実現に向けて、多様な立場の若者が地域参加できるような取り組み方の御提案、あるいは検証に当たって配慮してほしいことなどをお聞かせくだされば幸いです。

それでは、モデル事業ごとに意見聴取をしながら、皆様の御意見をいただきたいと思います。まず、学校でのモデル事業についてですが、委員からお願いできますでしょうか。

○委員　今回は、学校カフェを実施してみるというところまで至ってきたんですけれども、やはり商店街でも言っていましたけれども、そこを担う人たちをどうしたらいいかというのがとっても課題で、何の事業もそうなんですけれども、最初の立ち上げのときは熱量がすごく多くて進んでいくんだけれども、それが先細りしていって、だんだんだんだん継続していかないというのがいろんなところで見えるので、そこをうまく継続していくのにはどこの団体にお願いしたらいいのかとかいうのが今後の課題なのかなと思っております。

いろんなイベントでいろんな会議に出ても、携わっている人が場所を変えて同じ会議をしているというのがＰＴＡとか地域ではすごく多いので、そういった枠の中では新しい風というのは出てこないのかなという課題が１つ。継続していくということが１つ。

あとは、若者を対象にしていくときに、我々大人たちがどうやって対等にするかというのはすごく難しいんだけれども、意見を聞きながら進めていくという我々のモチベーションというか、その共通認識がなければ、ただただ大人が空回りしちゃって意見が出てこないというところ。学校チームでも研修会とかも立ち上げたほうがいいんじゃないかという話があったこと。

あとは、先ほどもおっしゃっていましたけれども、今立ち上げたところの先にいる若者たちをどうつなげるかというのは、地域だけじゃなくて学校カフェでも必要なことなのかなと。そこら辺を想定してどう動いていったらいいのかというのが今後の課題なのかなと思っております。

○会長　ありがとうございました。

今の御意見に対しては、学校チームが終わってから、また御意見いただこうと思います。

○委員　私は前期から学校チームに携わらせていただいているんですけれども、校内カフェが出張アップスという形で動き始めているということと、今後、大東学園さんにもアプローチをかけていくというところで、少しずつ実践といいますか、そういったものが積み重なってきているところは本当にうれしく思っております。

今、コロナ禍ということもありますし、不登校の出現率もどんどん増加傾向にある中で、学校の中でいわゆるサードプレイスといいますか、そういった2.5次元の居場所ということで、これまでこの協議会の中でも出ていましたけれども、やはりそういった場が本当に子どもたちにとってのセーフティーネットだったりという可能性は十分あるなと思っております。

商店街チームでもありましたが、飲食を何とかうまく使えたら、つながりをつくっていけるきっかけになるだろうなと思い、何かそこの形をつくっていけたらいいなというのと、あと、やはり学校の先生方の理解をどう得ていくか、ここは大人の仕事だろうなと思っているところです。学校の先生方は、これは私の個人的な意見ですけれども、やっぱり変化ということに結構敏感だったりとかいうことはあるかもしれないなと思うので、校内カフェをつくることで学校が変わらなきゃいけないとかそういうことではなくて、学校は学校でありつつ、そこはいわゆるセカンドプレイスなわけなので、学校の中に違う場所があることで子どもたちがほっとするんですよという理解を得て行きたいと思っております。

○会長　ありがとうございます。

では、商店街チームのほうから、お願いできますか。

○委員　７月にみんなのクチコミマップの企画に参加させていただいたんですけれども、３月に行ったまち歩きと比べて、まち歩きが大人の方たちに案内してもらうという結構受け身みたいな感じだったんですけれども、このクチコミマップでは、自分たちがまちを歩いている人に声をかけて口コミを書いてもらってという、私たちが主体的になって企画を運営していた感じがして、参加してくれた人たちの感想もポジティブなものが多かったので、すごく成功したと言えるのではないかなと感じています。

課題としては、やっぱり人を集めるというか、参加してくださる方たちを集めるのが大変だったので、今後は人の興味を引けるような内容の企画を考えたりとか、予約制にするのか出入りが自由なのかとか、場所の広さとかも考えていかないといけないなと思いましたし、多世代の交流をしたいという声が多かったので、いろんな人たちを取り込めるような、興味を持ってもらえるような企画をこれから話合いで深めていけたらいいかなと思っています。

○会長　ありがとうございました。また御意見がありましたらどうぞ御披露ください。

それでは中谷委員、よろしくお願いいたします。

○委員　私は、この３月から８月まで会議とかに参加してきて本当に思うのは、大人の方々の雰囲気づくりというか、すごく対等に接してくれているというか、そういう会議の雰囲気とかが本当にいいなと思っていて、そういう雰囲気でお話ができるからこそ、私たちがやっていきたいと思っている多世代交流とかの場づくりも実現できるんじゃないかなと思っているんですけれども、若者がそこに参加してくれるかどうかというのがやっぱり一番難しいところだなと思っています。自分でこういう会議とかに参加していて、すごく楽しんでできているし、自分自身もすごく成長できているなと思うんですけれども、そこに参加してもらえればそう思ってもらえるかなと思うんですけれども、そこのハードルがすごく高いことだなと感じています。

今の学生とか若者というのは、こういう取組自体に参加する機会が本当にないというか、こういうプロジェクトをやっていこうと思ったときに、もし参加してくれたとしても、授業みたいな感じで、やらなきゃいけないことみたいに感じちゃうというか、授業以外に学ぶ場所というのを持っている若者がすごく少ないと思うんです。授業ではないこういう場とか、外部のワークショップとか、職業体験のような何かイベントに参加するそも

そもの習慣自体がないと思うので、私たちがやっていきたい場づくりみたいなものに参加してもらうためには、やっぱり何かエンタメ性というか、参加してもらえるようなきっかけというかが必要なのかなと思うので、どうエンタメ性を持たせていくかというところと自分たちのやりたいことの両方を考えつつ、実現させていければいいのかなと感じています。

○会長　ありがとうございます。

　では、若者委員の意見を聞いた後ですが、よろしくお願いします。

○委員　若者の意見を聞いた後で、すごくハードルが高いんですけれども、すばらしい御意見が出て、私もコロナが蔓延している中でもリアルを大事にしてきて、Ｚｏｏｍでは１回、リアルで５回ぐらい、それとイベントもリアルなんですけれども、やっぱりリアルの大事さみたいなことをすごく感じた若者との交流でした。若者の方々も多分新しい、ちょっと年の異なるおじさん、おばさんから刺激を受け、私たちも同じく若い方からすごく刺激を受けて、とても楽しかったなというのが実感としてあります。

　その中で、本当によく考えてくださって、私たちの思いが及ばないようなところ、さっき言ったエンタメ性を持たせるとかというところで、これから新しいエンタメ性をどうやってつくっていくかというのは、若い人の考えの中でそれを出していっていただけるというのにちょっと大人はわくわくしているのが正直なところです。

　この会が、前期のテーマとして、若者の力で何かを変えられる、それから、自分の声が形になっていくというイメージを若い人に持ってもらうのにはどうしたらいいかということを大きなテーマにしていたと思うんですけれども、今回このように、商店街のチームで若い人と一緒に企画とかをやっていく中で、この２つの点についてはちょっと何か見えてきたのかなという感じがあります。今は本当に種まきの段階なんですけれども、今後この種が次の若い人にどのように広げていくかということがすごく課題だと思っています。若い人の中では継続性みたいなところを考えていただいていて、これを今の若者の中で組織化をしていってもいいのではないかという話も出ていますので、そういった大人ができることは応援していって、一緒のスタンスでパートナーとしてこれから歩んでいけるのではないかということで、みんなで一緒にチームとして頑張っていこうと思っているところです。

○会長　ありがとうございました。

　続きまして、よろしくお願いします。

○委員　もうお話が出尽くした感もありまして、私も本当に同じ印象で、まず、小委員会やお話し合いに参加してとても楽しく、若者の意見を聞くたびにわくわくするというような時間を過ごしています。

我々が高校生とか大学生だった頃には全く考えられない、教え込まれてそれを真に受けて真面目に行くというようなスタンスで昭和の我々は来ていましたけれども、今もお二方の話を聞いていてびっくりするんですが、とても主体的にこれからの世の中についてちゃんと視野に入れて、自分の頭の中で考えて構築しているなというところが、私の若いときには全くそこまで及ばなかったことを思い出すに、本当にすばらしいなと思います。なので、大切にして、今期ももう残り少なくなって、夏も終わり、あっという間に今年度も終わるだろうと思うと焦る気持ちもあるんですけれども、よきチームづくりはできてきていると思います。このテーマをもうちょっと大きなうねりにしていきたいという思いはもちろんあるんですけれども、大きくなればテーマの趣旨が崩れていくという心配もありますので、ここは慎重にゆっくり話合いを深めて、若者視点でというところを崩さずに動いていけたらいいんじゃないかなと思っています。

○会長　ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いします。

○委員　私も繰り返しになる点もあるんですが、若い人と話ができて非常に楽しかったです。

それで、いろいろ出てきている中で、居場所づくりの一環として多世代交流が一つの目的になりつつあるんですけれども、この多世代というのは、もっと意味が広いと私は考えていまして、単なる世代が上から下までというわけではなくて、その中にはいろんな業種、多業種、昔はやりましたけれども、いろんな業種が入ってくるんじゃないかと。民間かもしれない、公務員かもしれない、あるいは政治家の方かもしれない。若者からの希望があれば、そういう人たちの話を聞くような機会があるかもしれないという意味の多業種です。あるいは例えば、今日は来ていないんですけれども、新しく加わったメンバーの学生の中に障害関係のことを扱っている子もいまして、障害者との触れ合いの機会とか、そういったことも考えられるんじゃないか。いろんな広がりを持った意味での多世代交流、それをできたら飲食を伴ったバーという形でやっていきたいというような方向になりつつあるということです。

先ほど若い２人の委員からも出ていましたけれども、どうやって今後広めていくかとい

うことなんですが、今後も具体的な場所とか予算を区のほうに確保していただいて、これは大変ありがたいと思っているんですけれども、そういう活動をやっていくに当たりまして、恐らくチラシとかパンフレットを若い人たちが中心になってつくると思うんですが、それを事前にできましたら皆さんにも配付させていただいて、人集めという言い方は変ですけれども、口コミで若い人たちを集めることをぜひ御協力いただけたらなと思います。ただ、やみくもにどんどん人が来ても困るので、やはりこういう若者とともに変わる地域とか、若者の視点で地域を変えるんだという意識、あるいは多世代の交流の居場所に参加したいんだという意識を強く持っている人たちでないと困るんですけれども、そういう人たちにもぜひ、これだけ大人がいるんですから、いろいろ広めることができて、やっていただけるんじゃないかなと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

それから、ネットのほうでもねつせた！とかいろいろあると思うので、そういったところでも、引き続きご協力いただければなと思います。

それから、今日２人の若者が来ているんですけれども、実は２人とも非常に積極的に参加していただいているんですが、ほかにもコアメンバーの若者が何人かいまして、そういうコアメンバーを今後はどうやって広げていくかということが一つのポイントかなと思います。

継続という観点からいくと、何人かの話にも出ていましたけれども、やはり、組織づくり、体制づくりというのが、もっとしっかりした形をつくっていくことが必要かなと思っていまして、学生さんたちのほうで、こういうことをやっていくんだよというようなルールというか、会社でいう定款のようなものも素案ができているんです。それをもっとブラッシュアップして、肉づけして、ある程度組織をつくっていくということが一つ。

それから、バックアップについても体制が必要になるかなと思いますので、大人たちがちゃんとバックアップできるような体制もしっかりつくっていく必要があるのかなと思います。

○会長　ありがとうございました。

それでは、専門委員から御意見いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○委員　私も商店街チームのほうに関わらせていただいて、３月のまち歩きから今回７月の音楽祭のイベントの参加とかを見せていただくと、感想になりますけれども、本当に若者が中心に主体的に動いていったところがあって、日々驚かされたとか勉強させていただいた感じで私も一緒にやっていたところがあるので、若者が中心になって動いていたとい

う印象があります。

今後の動きとして、やはり大人ができることと若者たちができることが違う中では、大人が予算だったり場所のことだったりは動いていくことも必要でしょうし、あとは若者たちでどんどん、次の世代と先ほどの話題にありましたけれども、どういう人を呼んでくるかとか、どういうところと関わって面白く企画をつくっていくかみたいなところは、今後の議論を重ねていく中でいいアイデアがまた生まれてくるのかなと思っています。

若者が中心にという話をしてきましたけれども、大人たちが中心になるよりも非常にすごい意見が、こんなことを言うと大人の方々に失礼かもしれませんが、固まってしまったような考えがある中で、こんなアイデアがあるんだというのをやはり学ばせていただいたようなところがあるので、若者のやっていることを大人たちがある意味見守りながら、その子たちの意欲、やりたいことを引き出していくというか、やりたいところを自分たちも協力しながらつくり上げていくということがこれからも大事なんじゃないかなと思っています。

あとは、先ほどもう一つあったように、こういう事業とか居場所みたいなことをやっているというのをどうやって広報していくかが課題になるのかなと思うので、これはもう、いろんな媒体だったりいろんなものを活用しながらどんどん参加を促していく。自分たちもそこに関われば、何か変われる、何か自分がやりたいことを実現できるんじゃないかというような場所になっていけばいいのかなと思うので、そこの広報といいますか、こういう居場所があって、何か実現できそうだなというのを分かりやすい形で伝えていくというところを、いいアイデアを出しながらやっていけたらなと考えています。

○会長　ありがとうございました。

では、続きまして、よろしくお願いします。

○委員　御無沙汰しております。

ちょうど先日、僕は用賀のほうでお祭りを開催していまして、日曜日に終わって月曜日に片づけてという形だったんですけれども、ちょうど改めてこういうテーマに照らし合わせたところ、今回のこのテーマとすごく近い方向性に向き出したなということで、ちょっと共有させていただければなと思っております。

今回、僕らのやっていたお祭りは学生主体ということで、学生が企画して、学生が運営していく、当日お披露目を大人の人にするということをずっとやってきたんですけれども、コロナで４年間ブランクが空いてしまいまして、そこで何か断絶しちゃったんですよ

ね。そういった中で経験者がいないしどうしようかというところで、なかなかハードルがあって、お金とか人とかというのが足りないみたいな中で、どうしても地域に頼らざるを得なくなった。その学生主体を重んじるがゆえに、実は学生に閉じていたみたいなところがちょっとあって、改めて地域の方々にお願いをしたところ、かなりの御支援をいただいたりしました。資金面だと３日で220万ぐらい集まったりとか、人も１週間ぐらいで90人ぐらいですか、大人の方々含めてですけれども、集まっています。

何が申し上げたいかというと、学生主体とか若者主体というマインドはすごくすてきなことだと思うんですけれども、そこに地域の関わりしろがあるのかみたいなところはちょっと考えるところかなと思っています。その地域の関わりしろをデザインするためにも、学生と大人たちがどう解け合うかとか、どう混ざり合うかみたいなところをちょっと意識的に設計していくことが結構大事だと思っています。あとは、そういった学生主体というカルチャーを結構大人たちはちゃんと見てくださるというか、分かってくださるというのが恐らくあると思うので、意外と混ぜてもそんなにおかしくならないんじゃないかなと思っています。

さっき、組織の継続性の話もありましたけれども、困ったときは専門家みたいな形で、やっぱりここの会議の中とか一つのチームの中だけで考えるのではなくて、noteとかいろいろ発信されている、ねつせた！もそうですけれども、そういった中を全部オープンにして、世田谷区で何十万人の若者がいますし、大人を含めれば100万人いますしという中で、何か多様な関わり方ができるのりしろとか関わりしろをつくっていくことで、いろんな人たちが多分手伝ったりサポートしてくれたりとかいう形になってくるんじゃないかなと思います。

どうしてもこういうプロジェクトは、フルコミットする人がいないといけないみたいな形とか、あとは逆に、ちょっと顔を出す人はあんまり言いづらいみたいなところがあるんですけれども、１％のコミットメントでも99％でも100％でも、誰もがそういう意味ではフラットで、ただその多様な接点とか多様な関わり方をどうつなげていくか、接続していくかということが何かすごく大事なような気はします。

そうすると、テスト中で行けない、ごめんなさいじゃなくて、テスト中で行けない、それはそうだよねみたいな話にもなるし、大人も仕事だからごめんねで全然大丈夫だしとか、そういうものをつくるために、やっぱりその情報の透明性を上げるとか発信というのを、多分会議をやられているので、どんどん発信していってオープンにしていく。オープ

ンにすれば共感が生まれてコミュニティーになっていくような気がするので、何かその辺を、実体験を基にちょっと感想としてお伝えさせていただきましたが、今後とも何か一緒に頑張っていきたいなと思います。よろしくお願いします。

○会長　ありがとうございました。

今、学校チームと商店街チームの各委員の方々から取組の御意見をいただきましたけれども、何か言い足りないな、もっとここのところは言いたいなというのはありますでしょうか。もしありましたら遠慮なく。

○委員　私も一度学校カフェのほうにお邪魔させていただいたんですけれども、委員もおっしゃっていたように、高校では生徒さんの意見を聞くということがあったと思うんです。やはりこのカフェをやるときでも、大人が主体ではなくて子どもたちの意見もきちんと聞いて進めていくということが大事なんじゃないかなと思いますので、学校カフェでもそういった取組を、高校だけではなくて中学のほうでもできるようになったらいいなという希望だけは申し上げておきます。

○会長　ありがとうございます。

希望丘中学校へ行って、そういう子どもたちの声を聞いて、今、御指摘されたようなことはありますでしょうか。

○委員　子どもたちは、校長先生がのぞきに来たときに、これを毎日やってほしいと言っている若者がいたりということはありましたけれども、どういう形で運営したらいい場所になるかというところについては、まだ若者の意見が聞けていないので、もう少し固まってきたらそういうこともしっかりとやっていきたいと思っています。

○会長　ありがとうございます。毎日やってほしいというのは切実なる意見だと思うんですよね。

各委員の方々からの発言で、ほかにないですか。これは聞いておきたい、これはもっと主張したいというのはございますか。

○委員　何度か同じ意見をずっと言い続けているんですが、居場所がやはり必要だなということで、どなたかからも出ていたけれどもリアルな場がやはり非常に重要かなと思っています。いろいろ議論が出てきたことを実現するためにも具体的な場が必要ということで、今現在その具体的な場所の候補が２か所ぐらい出てきていて、もう来月早々に１か所視察して、それで具体的に何のプロジェクトをやるのだということを話すスケジュールも決まっております。

ただ、その継続性の議論になるんですけれども、ある程度定期的に継続的にそういう場を確保することによって、会議の目的である若者とともに変わる地域というのが実現できると思うので、この継続的な場の確保は非常に重要なのかなと思います。

人、物、金の中の物はやはり一番重要。金は区のほうに頑張っていただいてどうにかしていただく。人は、先ほど申し上げたように、口コミで広がっていくしかないと思いますので、これで広げていくということかなと思っております。

○会長　課題が見えてきたような気がしますけれども、ほかにございますか。どうぞお願いします。

○委員　日頃から私も若者たちといろんなプロジェクトを組んで活動している中で、継続性というのをどういうふうに考えるのか。例えば、今ある組織がそのままずっと発展して継続していくということなのか。それとも、何か火山の火口のように次々に泡が上がってくる継続性なのか。どちらかというと、大学生世代というか、就職をされると少し地域から離れるみたいなところもあるので、違うものがふつふつと上がるような意味での継続性というのがいいなと思う反面、例えば大人になっても関われるのであれば、用賀のお祭りだと一つのものが割とずうっと継続してあってもいいというようなところもあって、その継続性については何かもうちょっと深い議論をこれからしていきたいなと思いました。

○会長　ありがとうございます。

それでは、小委員会でずっとリードしてくださった委員長、副委員長に御意見いただければと思います。

○副会長　本日はいろいろと御意見をありがとうございました。小委員会の委員長をさせていただく関係で、この後、落としどころをどこに持っていけばいいのかということを想像しながら、いろいろと考え、お話を伺っていたところです。

学校に関しましては、先ほど委員からも意見がありましたけれども、学校は本当に壁がありますね。その壁を超えていく一つの方略として出張アップスを使うというのはよかったなと思っております。また、私立の高校ですとトップの考え方一つでそこに穴が開いていくというような可能性を今大東学園さんからいただいているということがありますので、そのあたりを学校を中心にしたところでは進められていくのかと思っております。これから、ここまでにやってきたことをある程度評価していかなければならないという時期に来るわけなんですけれども、評価の仕方はいろいろあるかと思うんですが。

私自身は地元としては北区の桐ケ丘地区というところで小学校のおやじ倶楽部のメンバ

ーとして地元で子どもたちと一緒に、地域の皆さんと一緒に、地域づくり、人づくりに関わってやらせていただいているんです。そうすると、一つ違った視点を私は持っていながらここに関わらせていただいている。その視点があることによって、これは優劣ではなくて、こういう視点もあるんだけれども、こういう部分では世田谷がうらやましいなという部分がすごくあるんです。それは、こういう協議体が行政の中でしっかりと位置づけられていて、区議会議員の皆さんがこの話を聞いてくださっているというところがすごくうらやましいと思います。お金の部分も区のほうに頑張ってくださいという声が正直に伝わっていき、それが予算化されていくとかという道筋が見えているのは、ふだん本当に草の根で四苦八苦している私たちからすると、うらやましいなと思っております。

私が地元で活動させていただいているのが桐ケ丘地区というところで、戦後の高度経済成長を支えた団地の真っただ中にある商店街なんですけれども、団地は老朽化、住民は高齢化ということで、まさにシャッターが閉め続けられているようなところの一角に明石屋さんという、かつて住民を支えていたおそば屋さんがあるんですけれども、そこの店舗を借りて、勢能委員が場が必要だというお話をいただいていましたが、場があるんです。寒い時期でしたけれども、勢能委員、区の職員の方には来ていただいて、朝活というのをやっていますので、そこで見ていただいて、そこを中心にして、あのときは高齢の方々ばかりだったんですけれども、場があることでいろんな人たちが集まる、確かにきっかけという意味では有効なんです。

その商店街が、道路を挟んだすぐ横が桐ケ丘郷小学校なんです。先ほど下村委員のほうで、学校に来られない子どもたちを学校チームがどのように包摂していけるのかというところも一つのテーマになっているなんていう話がありましたけれども、場があることで、場を中心にして、子ども食堂みたいなことを二、三か月に１回今行っております。今度、11月の満月の日か何かが今年は月食か何かに当たっていますか。それと併せて子ども食堂をやって、みんなで星を見る会ならぬ月見会をやろうと。そして、月を見るのにやっぱり校庭とかというのはとても便利な場所なので、地域の高齢の方々の中に望遠鏡を持っている星に詳しい方がいらっしゃって、そこに子どもたちを連れていく。子ども食堂に来る子どもたちは、もちろん学校にふだん通えている子どももいますけれども、私たちの地域では自由登校を見守る会という会があって、通えていないお子さんたちもやっぱりそこに関わっているんです。その流れで、校庭までは入っていけるような機会をつくっていこうとか、そんな流れをつくっています。

ですから、場があることで広がり、広がりがあることで学校ともつながっていけるし、そんなところがいろいろと見えてきておりましたので、また評価をする段階においては、こんな新たな視点があったらいいんじゃないかとか、こういうところはこの世田谷のすばらしさだよねとかというところなんかも照らし合わせながら、させていただけるとありがたいかなと思っております。

いずれにしましても、これまで本当に小委員会の皆さんがそれぞれのところで、小委員会の具体的な目に見える会議がここにありますけれども、これ以外に様々に活動を繰り返し繰り返ししていただいておりまして、活動している中で見えてきたものがたくさんありますので、何らかの成果が見えるように、小委員会としても引き続き皆さんのお力をお借りして進めていきたいと思っている次第でございます。

○会長　ありがとうございました。

○委員　私、若者委員にもうちょっと話をお聞きしたいんですが、今回モデル事業を含めてやっている中で、今回の目標として若者の力が生きる地域ということでやっていて、「若者とともに変わる地域～若者の視点で」というところなんですけれども、この間そのモデル事業に関わっていて、この若者の力が生きる地域のためには何が必要だと思うのか、どう感じられてきているのかなというのをちょっと改めてお聞きしたいなと思っています。

というのは、要はモデル事業を踏まえた上での来年、どう本実施になるのか、どういう事業にしていくのかとあるんですけれども、そこは若者自身がどう思っているのか、感じているのかというところがないと、同じことを繰り返しても意味がないというか、どうしたら若者の力が本当に生きるのかなというところ。あるいは、こういう場があるからよかったというのはもちろんあると思うんですよね。大学でもないし、家庭でもなくて、たまたま、大学のほうから声をかけられたからみたいなところとか、何かいろんなきっかけはあったと思うんですけれども、その中でもやっぱり参加してみてどうだったのかとか、それでも人を集めるのは大変だよねとかいろいろある中で、どうしたら若者の力が生きる地域になるのかなと、改めて関わっていてどう思ったのかをそれぞれからお聞きしたいなと思っているんですが、どちらからでも、いかがですか。

○委員　私は、さっきおっしゃったみたいに大学のほうから声をかけられて、ここに参加しているんですけれども、さっき中谷委員がおっしゃっていたみたいに、やっぱり最初は緊張するし、何を言ったらいいんだろうみたいな感じだったんですけれども、参加する

と、意見が必要とされていることとかも分かるし、雰囲気もすごく、定期的に行っている打合せというか、会議ではすごく意見も言いやすいしというのが分かると思うんですけれども、確かに最初のきっかけが難しいなと思っています。

でも、やっぱりまち歩きから参加してくれている方とか、あとは、クチコミマップから参加してくれている方も結構続けて参加してくれている方が多い印象なので、それでだんだん意見も出てくるようになるし、私はそこで出てくる意見にすごく刺激を受けたというか、こんなにみんなすごく考えているんだなというのに刺激を受けたので、知り合い同士で誘い合えたりしたら、もうちょっと参加しやすいのかなとか、意見も、仲間がいる感じがして言いやすいのかなと思うので、若者同士で誘い合ってみたりとかしたらいいのかなと、今ちょっと思いました。

○委員　ありがとうございます。

○委員　私がまずまち歩きとかに参加したきっかけは、一緒に今活動しているメンバーが、世田谷コミュニティ財団様からこのイベントを紹介されたというので参加したので、自分から見つけたわけではないのと、それこそ、友達からこれに参加しない？って言われたので参加したので、大分ハードルは低かったのかなという感じだったんです。

あと、参加してみて、さっきも言ったんですけれども、本当に話を聞いてもらえるし、すごく受け入れてもらえるというような場があるのが本当にいいことだなと思っているので、たくさんの若者がこういう場に参加してくれるようになったらいいなとは思うんですけれども、さっきも言ったように、授業以外でのこういう学びの場を持っている若者は本当に少ないと思っていて、そこをどう変えられるかというところかなと思うんです。

例えば、私のチームメンバーも、最初、こういう活動をする前に何かのイベントに参加したと言っていたんですけれども、それは親から、これに参加してみたらと言われて、なんか参加してみたみたいなことを言っていたので、家庭にアピールしてみるとか。あとは、今は高校生とか大学生とか中学生とかが一応若者としてこのモデル事業で見ているのかなとちょっと思うんですけれども、もっと小さい頃から、こういうイベントというか何かをまちの人と協力して成し遂げるという体験をしていくことで、だんだんその地域の開催するイベントとかにも参加しやすいようになるのかなと思ったので、もっと小さい頃から一緒にまちをつくり上げていくという経験をもしできたら、中学生、高校生、大学生となっても、もっとまちづくりとか、そのまちの何かイベントとかに積極的に参加してくれたりとか、自分たちでつくり上げるということができてくるんじゃないかなと思います。

○委員　ありがとうございます。

どう若者が主体的にというか中心になってこういう事業を進めていけるようにするのかというところが一つは大事なのかなと思っています。例えば学校カフェでも大学生のインターンが一緒に行くとかというのも、まさにそこはすごく大事なところで、それを下村委員は丁寧にやられているなと思っています。やっぱり同じというか、ちょっと上のお兄さん、お姉さんみたいな方が中学校、高校に行くというのも非常に大事で、何かそこの担い手に大学生世代とかがうまくなっていけるといいのかなというふうにはちょっと思ったんです。

そういう意味では、これはここの場なのか、小委員会で議論したのかちょっと分からないんですけれども、今後の報告書という中で私が今思ったのは、以前、この世代だとユースミーティング世田谷というのをやっていて、あれは期間限定ではあったんですけれども、何かそういう若い世代中心の組織体というかグループみたいな、若者議会みたいなかちっとしたものじゃなくていいと思うんですよね。もうちょっと若者が集まって自由な発想で、そのときやりたいことがやれるような活動を、推進するのかサポートしていくのか、そこの仕組みはいろいろあると思うんですけれども、何かそういうものを一つ、この中につくるというよりかは、ここの関係性はもちろんあるんですけれども、何かそういう若者主体でやれる――今ここにいると、どうしても私を含めて大人が多いので、もっと主体的に緩やかにやれるようなところをきちんとつくる、ある意味10代、20代ぐらいのところでつくるというのは一つ手なのかなと。

その中で、一つは若者議会チームみたいなものがあって、議会とか、何かもっとまちの政策提言をするならすればいいし、まちのコミュニティーのところとかにやるならばやればいいし、何か居場所づくりとか、もしくは、そこにねつせた！が入ってくるのかもしれない。そこの仕組みはいろいろあるんですけれども、何かそういうものをやると、若い人も入ってきやすくなるのかなと、今日話を聞きながら、ふと思いましたというコメントでした。

○副会長　若者議会とかと言われたときの若者は、世田谷区内の若者ということになりますか。

○委員　区に関わるので、在勤、在学、在住でいいと。

○副会長　そこは大事ですね。先ほど若者委員からお話の中で、確かに今私が地域でやっているのも、大学生たちも来ているんですよ。でも、大学生たちが来ているのは、うちの

学校の関係者だったりするので、地域の若者の姿じゃないなとちょっと思ったときに少し反省をしているところです。学校に通えていない子どもたちに関しては、自由登校を見守る会とかの皆さんと一緒にやっているので、かつて学校に通えていなかったお子さんたちが、今、通信制の高校なんかの選択肢がありますから、そういったところで１人すごく包丁研ぎが上手な高校生がいて、朝活のときにいつもその方がお店に出してくれて、包丁を研いでくださって、すごくそれはそれで楽しかったりするので、まさに地域の中の若者、高校生がいるんですけれども。確かに大学生ぐらいのところが、うちの、東洋の学生であって、そういえばあの辺に住んでいる若者の姿が見えていないというのにすごく反省したんです。

先ほど継続性というキーワードが出てきたので、その継続性を考えたときに、その地域の同じ世代の若者たちが、何だよ、東洋の学生ばっかりじゃなくて俺たちだっているぜとか、私たちだっているのよみたいな、そういうのを何か引き出してやれるようなところは、もしかしたら継続性とも関わって大事なのかななんていうのは思いました。

委員がやられているお祭りなんかは結構地元の若者なんかも入ってきていたりするのでしょうか。そのあたりも少しお伺いしたいなと思った次第です。

○委員　年によって違いまして、最初のほうとかはほぼ100％に近い形で地元ネイティブがたくさんいましたけれども、例えば今回だとほとんど地元がいないという形です。駒澤大学のゼミとちょっとコラボさせてもらっていますけれども。ただ、でも、そのおかげで１人用賀に引っ越すという学生が出てきて、今まで五、六人は多分送り込んでいるんじゃないかなと。今でも、大人になってもまだ住んでいる人もいますし。だから、その地域の考え方とかの定義によるかなとは思っています。在勤在住がもちろんベストですけれども、そこで若者が何かにぎわいを起こしているという事象を継続的にやっていけば、地元だからやろうかなみたいな形で参加していく地元ネイティブの方々がいらっしゃるんじゃないかなと思うので。大事なのは、そこの、やるためにどうかというところでちょっとスピード感が落ちるよりも、どんどんどんどん進めていって、若者でいかににぎわいをつくっていくかということが結構大事かなと思っています。

○会長　ありがとうございます。

○委員　１点、御紹介したいことがあります。実は、しもきた倶楽部というタイトルで活動している現状なんですけれども、しもきた倶楽部って何ぞやというものをはっきり決めたほうがいいんじゃないですかと若い人たちにお願いしたら、若い人たちがこの２枚の紙

をさっとつくってきまして、その中のポイントだけちょっと披露させていただきたいんです。しもきた倶楽部の定款というか、目的ですかね。１個ずつ読み上げますね。

１つ、友達の友達のつながりをつくる。２つ目、自分のキャリアの選択肢を広げるつながりの機会をつくる。３つ目が、生き方の選択肢の種を植える。４つ目が、人生相談。これは若者からの意見です。５つ目が、学校の友達と家族とは話さないことを話す機会。それから、若者の意見を集める。テーマを通じて人とのつながり、社会との接点を広げる。それから、若者が多様な生き方を知ることで未来にわくわくする。新しいつながりの獲得。最後が、行動を起こしたい若者のサポート。起業とかそういったイメージだと思うんですけれども。

ちょっと披露させていただきましたけれども、これが若い人たちから出てきたしもきた倶楽部って何をするところだという定義づけです。以上です。

○会長　ありがとうございました。今後の運営に非常に参考になるのだと思うんです。組織というのは、具体的な理念がきちっと明確になれば、そこでみんなが本気になっていくわけですよね。目標に向かって進んでいく。これは組織論のいろはですけれども、今御紹介いただいたのは、まさに理念がそこに書かれたということですね。ありがとうございました。

今、各委員、小委員会に集う先生方からお話しいただきましたけれども、今度は協議会委員から、行政の側から、今まで伺った感想でも結構ですし、こうしたほうがいいんじゃないかというようなことも、あればお話しいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員　お恥ずかしいんですけれども、今回初めてこの協議会に出席をいたします。今日はいろいろと委員の皆様から御報告をいただきました。私なりに今日の協議会に出席するに当たりまして資料をいろいろとひもといたんですけれども、実際に報告を聞く中で、ちょっと感想といいましょうか、そういったことになりますけれども、お許しください。

まず、居場所をつくるということですね。しかも、世田谷区の若い方たちのためにということで、学校チームでの活動で学校に入り込んだというのは非常にすごいなと思いました。そういう中で２回の出張アップスに取り組まれたわけですけれども、御協力をいただきました先方の中学校の校長先生のお話だったと思いますが、学校へ行けない生徒に来てもらうというような新しい課題みたいなものも、ちょっとお話があったのかなというところです。学校に来られない子どもたちに、あえて学校に来るのかなという部分もあります

けれども、ただ、そういう場所があるということをしっかりと根づかせれば、ここは小さな光がもっと大きくなっていくんじゃないのかなと思いました。

商店街チームの取組につきましては、こちらはまたちょっと学校とは違うフィールドになりますので、相当年齢の幅が広かったのかなと思いました。みんなのクチコミマップ記録表というのを見てみますと、結構10代以下とか、そういう若い人たちがターゲットになっておりますので、もしこういった年齢層の方たちが来たということであれば、こちらの商店街チームの取組についても、もう少し深掘りをさせていけばもっともっといいものになっていくんじゃないかなという感想を持ちました。

簡単ではありますけれども、以上でございます。

○会長　ありがとうございました。

では、続きまして、よろしくお願いします。

○委員　私、今までもこの協議会に参加させていただいて、前回と前々回には子どもの居場所の話に関連してトー横の話をさせていただいたんですけれども、居場所のない子どもたちが居場所を求めて自分たちを受け入れてくれるトー横に行って、そこで被害に遭ってしまったりというようなお話をさせていただいたと思うんです。

つい先日、８月20日、皆さんもマスコミの報道などで御承知されていると思うんですけれども、渋谷で15歳の中学生の女の子が、神泉の辺りで路上を歩いている親子連れを襲って刺したということで、逮捕された事案がありました。

居場所がない子どもが被害者になるということをこれまで私は強調して、何とか居場所をという話をしてきたんですけれども、ちょっと衝撃を受けました。加害者にもなってしまう。潜在的に全ての子が加害者になるわけでもないですし、被害者になるわけでもないと思うんですが、こういった居場所がないゆえに思い悩んで、この件なんかも親とか兄弟を殺そうとして、その前に人を殺せるのかどうか試してみたいと、そういうちょっと飛躍してしまったような考え方で、自分だけの考えですよね。そういったところでこういった犯行に及んでしまうということで、かなり衝撃を受けたんですが、やはり、どうしても居場所というのが必要なのかなと改めて認識をした次第なんです。

今日の小委員会などでの各事業の進捗状況などをお伺いして、出張アップスの中で委員がお話しされていた中で学校の先生のお話として、学校に来ない子どもの居場所というところでやはり期待をされているのかなというところで、この出張アップス自体が、今のお話をお伺いしていると、学校に来ている子がちょっと一息つける場のようなものを想定さ

れているのかなと思いますけれども、そうであるならば、もう一歩進んで、この事業を今後本格化されていく中で、学校に来ない子たちの居場所、ぜひ、そこは強く申し上げたいんです。私たちは、以前も申し上げたように、警察ではその場所はつくれませんので、絶対に必要な場所ですので、そこに何か目を向けていただきたい。

その前段階として、ちょっと今日は退席されてしまいましたが、世田谷児童相談所の所長さんなんかともこれまでいろいろと会議の場でお話をさせていただく機会があったんですけれども、トー横の子たちを今私たちが保護すると、大体児童相談所さんに保護していただいたりということで、今、児童相談所の中はトー横化している。トー横の子たち、もし機会があれば、その子たちに話を聞いていただいて、どういった場を求めているのか、どういった場所だったらこの子たちの居場所になるのか。学校に来られない子もそうですね。トー横には行っていなくても、今学校に来られなくて家に籠もっている子なんかも、なかなか全ての子にお話を聞くというのは難しいことだと思いますが、何を求めているのか、どういった場所だったらその子たちの居場所になり得るのかというところをぜひ聞いた上で、事業化を進めていただければなと思います。

○会長　新たな課題をありがとうございました。深刻な問題を、子どもたちから聞くということが大事だと思います。

これからは、今日お話しした予算、物、金とか、人、場所とかいうのが出てきましたけれども、それに応えていただくのは議員の先生方でございますので、これから議員の先生方にお話しいただきたいと思います。それでは、お願いします。

○委員　今日はありがとうございました。現場も見ていないのにこんな意見というか、感想をさせていただくのは僭越なんですけれども、ちょっと感じたことを述べさせてもらいます。

出張アップスのほうは、子どもたちの居場所ということで、学校のそこのカフェに行ったら大学生たちがいて、それこそ家族のこと、家庭のこと、勉強でも、将来のこと、性のこととかそんなことでも、相談する場所があれば。先ほど学校に来られない子のというのもありましたけれども、教室に行けないけれどもこのカフェだったら行けるという子もいると思うし、そういった受皿にきっとなっていくのだろうなと思いましたので、ぜひそこは教育委員会と連携してもらって、例えば学校のゼミとかでそういった取組をしていただくといった連携の仕方があるのかなと。中学校全校に何か１つずつあってもいいのかなぐらいは思わせていただきました。

また、クチコミマップの下北のほうですけれども、もうこれは本当に情報発信として商業ベースに乗るというか、きっと企業が一枚かみたいというところもちょっとあるのかなと思いましたし、そのぐらい本当に有益な情報が集まっている場所だと思いました。これも継続させていくことが多分大事で、そのためには本当に起業案件として、何かビジネスとして発展していく可能性があるのかなというのは思わせていただきました。

いずれにしてもどちらも、特に下北のほうなんかは、最初は駄菓子屋とかそんなお話だったかなと思うんですけれども、多分大人の発想だとそのぐらいで、きっとそのまち歩きとかいろんな検討会議を続けていく中で、このクチコミマップというふうに発展していったのかなと思うんですけれども、いずれにしても、子どもたちの発想がこうやって現実化してくるところにすごい可能性があると思わせていただきました。小委員会だけではなくて、いろんなところで活動されていることに本当に頭が下がりますし、これからの、もちろん予算化というところもあると思いますし、子ども・若者部だけではなくて区全体で取り組む必要があるなというのは感じさせていただきました。

○会長　ありがとうございました。

それでは、続きまして、お願いします。

○委員　小委員会の皆様につくっていただいて、ここまでやっていただいて、本当に感謝しています。すごい熱量を持ってやっていただいたなという感じがいたしました。ありがとうございます。

先ほど委員の言われた居場所がやっぱり大事で、特に学校に行けない子たちのためにそういう場が必要というのは、その場こそがアップスなのだろうなと思ったんですけれども、このアップスがわざわざ出張する、学校の中につくるということは非常にまた意味があるなと思ったんです。学校がつらくなる子が出てくる。そのまま学校に来られなくなるのではなくて、学校に違う場があるということになると、トーンダウンしちゃう子が、それでもそこでもう一つの違う学校の場でとどまることができるというのは、これはすごいことだなと思いました。

今度は昇降口でやるという。やっぱり表にもうちょっと見せるとなると、そこの学校の子だけではなくて、地元が嫌だからといって違うところに行っているという子もいたりとか、様々な子どもがたくさんいるわけで、ここならちょっと顔を出してみようかなとか。そんなときに、アップスは大学生のインターンをいっぱい抱えているので、そういう子たちとの連携が、いかにこの中学生や高校生が救われるかということは、アップスを見てい

て本当に感じているんです。そういったことが外でできている、そんな世田谷になったらすごいことだなと思いますので、何とかトーンダウンしてしまわないセーフティーネットが一つできるというのは大きいかなというふうに実際は感じました。

また、商店街の中に居場所をつくるというのもすごい話で、先ほど委員が言われたように、多世代もそうですね。多業種もそう。

自分が感じている中では、自分は消防団で分団長をやっているんですけれども、自分の分団は今35人いるんですけれども、その中に20代が５人いるんです。その中で３人が学生なんです。消防団ですから全部地元なんですけれども、地元に引っ越してくる子も非常に多いですけれども、地元で何かやりたいとか、地元を知らないからやっぱりそういう場に入っていきたい、そういうことを求めている子ども、若者も、20代もいるんだということは非常に実感をしました。

学生が入ってくるということも僕はすごいなと思ったんですけれども、全部口コミで、人づてで入ってくるんですけれども、その中で、こんなおじさんやおばさんや、年齢層は70までいますので、そういうところに何で20代や学生がいるのかといったら、やっぱり居心地がいいなとなれば、いるのだろうなと思いますし、そこで当てにされる。自分は、あのおじさんやおばさんたちが当てにされているんだということだとか、これができたとかいう経験が毎回できるとか、そうなると続くのだろうし、また、いろんな、こういうことをやりませんか、ああいうことをやりませんかと、だんだんこうなってくるということを感じる。こういう多世代の中に目的や、また居心地がいい場がつくれると、そういうのが大きくなっていくかなと。

居場所ができて、今日は多世代だよとか、今日は多業種だよとか、例えば今日は多文化だよとか、異国の人もたくさん今日は集まる日なんだよとか。広報の問題も難しいかもしれないんですけれども、そういういろんなテーマがあると、そのテーマに感じる子たちが、じゃ、自分はこういうのをやっているんですけれどもどうでしょうかって、そこに提案をし、そして、そこで主体に変わっていくような、そんな場が商店街にあちこちできたら、世田谷はまた面白いだろうなと感じたんですけれども、感想を言わせていただきました。ありがとうございました。

○会長　どうもありがとうございます。

では、続きまして、お願いいたします。

○委員　今日はありがとうございました。両方のチームとも解像度が上がってきているっ

て、何かちょっと上から言って失礼なんですが、でも、本当にすごく楽しかったです。伺っていて、私も頭の中でいろんなことを考えながら聞きました。

学校チームに関して、私は学校カフェ、前回も実はすごく必要じゃないかということを言ってきました。今、委員がおっしゃっていたのかな。校長先生が不登校の子のために土日もという話があったんですが、私はちょっと意見が、いや、その校長先生がやればいいのになと正直思いました。いや、やっている学校があるんですよ、世田谷区内で、中学校で、公立で。ですから、教育委員会がやるべきこととここがやることはきっちり分けて、私はやるべきだと思います。今、小中学校で不登校は、世田谷区は1300人います。それは文科省のカウントで1300人なので、連続して31日でしたか、20日間休むだけなら不登校カウントされないとか、その予備群が裾野にいると考えると、不登校対策というのはやっぱり真剣に校長先生がやってよと、ちょっと正直思いました。

あと、この学校カフェに関しては、今、広島県の教育委員会が既に校内フリースクールというのを事業化してやって、多分予算もついているんじゃないかなと思うんです。ＳＳＲ、スペシャルサポートルームというのも動き出していたりするので、ちょっと学校カフェと同じか、一致しているか分からないんですけれども、やっぱり学校に一つの、サードプレイスと先ほどありましたけれども、求められているものなのだろうなと。それが結果的にもしかしたら不登校対策にも、結果論として、なる可能性があるんじゃないかなと思いました。

あと、うちは息子が中学生なんですけれども、学校の中にそういう何かほわっと行ける場所があったらって、前に聞いたときに物すごく喜んでいて、部活が相当忙しいので、でも、部活のない日だったら、行けるところがあるならいいかも、そこにはおやつがあるの？とかいろいろ言っていましたけれども。だから、多分、何となくそこがあると周知されると、実はやっぱり常設が求められる可能性が。もちろん今は物理的に難しいと思うんですけれども、求められているものだということはすごく感じました。ぜひ私も今度見学に行きたいなと思います。

あと、商店街チームのほうは、すごく楽しかったのは、サードプレイスを私も最も求めていて、家でもない、家庭でもなく、議会でもなく、仕事ではないところというのは本当にふわっと行きたいなといつも思っていて、今、企画書が上がったと書いてあったので企画書も見てみたいなと思ったんですけれども、もしこの（仮称）多世代交流Barがあったら、多分行くと思います。

しかも、もともとはまち歩きから始まったことだったということで、まち歩き自体もすごく楽しかったのだろうなと想定するので、すみません、動画はこれから見ますけれども。なので、積み上げてきて、今ここに収れんされてきたということに関しては、何か全力で応援したいなという気がいたします。

○会長　ありがとうございました。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員　今日は本当に貴重な役立ちそうな報告をありがとうございました。本当に頭が下がります。私は、いろいろお話を伺っていてキーワードが幾つかあるかなと思いました。おやつというか、カフェとかバーというのは非常にいいと思うんです。飲食があれば、私も引きつけられるんです。なければ、ただ居場所があっても、ふうんとかいって通り過ぎそうな気がするんです。全員が食べ物にひっかかるか分かりませんけれども、やっぱり飲食があると和むし、そのスペース自体に興味がなくても、何かあそこに行くとおいしいカフェオレが飲めるよとか、手作りのクッキーを食べられるらしいとかいったら、用がなくても行っちゃうかなみたいな、そういう人っていると思うんですね。そういうことがきっかけでも、人集めにはなるのかなというのが一つ。

あと、エンタメ性という御意見、非常にそうだなと思って、何か世田谷区が予算をつけて、人寄せパンダといいますか、有名人を呼んじゃえばいいのに。まあ、有名といっても何十万だ、何百万だと出さないと来てくれないような人は置いておいて、もうちょっとボランティア精神もあって、だけど社会で結構活躍しているとか、若者に実は人気があるんだとか、そういうゲストに来てもらえるようなイベント的なことが、たまには、周知してもらうためのそういうものが、カフェやバーにあってもいいのかなということ。

あともう一つ、ただの居場所、ちょっと寄っていきませんか、ほっとしませんかというのも、もちろん必要なんだけれども、子どもでも学生さんでも、20代から30代ぐらいまでで得意としているものがあって、何か教えてくれませんか、習いませんか、お互いにそれを出し合いましょうという場面があると、自分はこれが得意、教えたいとか、それをやってみたいというようなことで、共に何か作業をするという場面もつくれると、人と人のつながりが広がる可能性はあると思うんです。

例えばクッキー作りでもいいですし、福祉に何かこういうものが必要なんですよといったときに、みんなで一緒につくりませんかというのもありだと思うし、商店街チームの方は、岩男さんにお願いして、衣裳の話とかいろいろ聞いて、古着を再生とか、そういう知

識を得たり、実際ちょっと何か作ってみるというのもありだと思うんです。あともう一つ、私は議会でもこれを取り上げたんですけれども、ヒューマンビートボックスといって、楽器がなくても、本当に何にもないのに、マイクさえあれば声で、幾つの楽器を使っているのか分からないぐらいすごい演奏ができちゃうんです。私はちょっと挑戦したらできなかったですが、できるのはできるんですよ。何代目かの日本チャンピオンが、高校時代不登校で本当に学校に行けない、友達もいないという中で、ユーチューブでヒューマンビートボックスというのに出会えて、やってみた。家で自分でユーチューブを見ながらやってみただけで、チャンピオンにまでなったという。

そういうこともあるので、何かそういうものがあるんじゃないかなって思うんですよ。それはもう本当に予算も何もなくてもできるようなこと。そういう実際にチャンピオンで、普及したい、ボランティアでもいい、子どもたちに教えたいという若者もいるんですね。だから、そういう人たちをぜひ使って、だって、気持ちがある人たちがいるので、そういうきっかけにするといいのかなと思いました。

最後に、理解ある校長を探す。これはすごく大事なキーワードだと思います。学校は、私もほんの少しだけ公立中学校の教員をやっていたことがあって、どれだけ壁が固いかは、よくよくもう実感しているんです。先生たちも忙しいから、もうこれ以上余計なことはやめてください。何かやるというと、どうしたって、学校の先生はやらなくていいといったって、その責任者みたいな先生が必要になるんですよね。学校現場は、あなたが担当してください、何かあったときは、窓口は何々先生って。だから、すごい負担だと思うんです。

なので、やっぱり校長先生に理解があって、校長先生を信頼している教員がいるような学校じゃないとなかなか難しい。校長先生がやる気があったって、全然先生たちがついてきませんみたいな学校だと、これまた厳しいですよね。でも、世田谷区にもいるんですよ。特別なことをやりたくないのが普通ですけれども、中には、本当に気持ちと思い以外に、実行力と、やっぱり学校の中での信頼とかがある先生はいると思うので、その先生を探して、そういうところに学校の中で居場所をつくるということが大事かなと思いました。

それからもう一つ、本当に深刻な子どもですね。学校も行けないだけじゃなくて、家庭も本当に不幸で、居場所がないということは生きている価値がないというぐらい追い詰められている子たち、そういう子でも、何か広報によって、じゃ、あそこにおやつを食べに

行ってみようというふうにひっかかってくれればいいですが、何にもひっかからない子というのはちょっとまた別に考えていく必要があるのかな、別のアプローチが必要なのかなということを感じました。それはそれでもう一つの課題として考えなきゃいけないかもしれません。

ありがとうございました。

○会長　ありがとうございました。

スケジュールどおりに進んでおりまして、残りあと10分でまとめに入っていきたいと思います。

今、キーワードが出されましたけれども、今回のキーワードに関して言いますと、やはり居心地のよい居場所をつくる。それを継続的にどうつくっていくか。その継続性を保つために組織化をどうするかということです。堅苦しい組織ではないですけれども、組織化をどうするか。

それから、その組織の中でエンタメ性は必要なんじゃないか。エンタメ性というと、世田谷区にはたくさん大学があるんですね。今、世田谷６大学コンソーシアムというのをやっているんですけれども、その中で学生たちに、かなりエンターテイナーがいまして、私のいる国士舘大学ではダンスの世界チャンピオンがいるんです。パリオリンピックの候補者になっています。運動だけじゃなくてダンスのほうもいる。それからタレント、ＡＫＢに入ったのもいますし、ジャニーズに入ったのもいますし、いろいろいるんですが、ジャニーズにいる人を呼ぶわけにいかないので、候補を探すことも大事ですね。

それから、世代間交流というのもキーワードであって、若者委員が加わって小委員会の中でも検討しているわけです。それをどうやってつくっていくかというのも必要かなと思います。

それから、不登校の子どもに無理やり学校へ来させるんじゃなくて、学校を楽しくさせる、そっちのほうが私は大事かなと思います。今、委員がおっしゃったようなことをやっていくことが、子どもたちの居場所を温かくしていくものではないかなと思っています。

今日の議論を基にして、今出されたキーワードを基にして、これから、10月から小委員会に入っていくわけです。10月13日、11月15日、12月16日に協議会がまたあって、その後、小委員会が活動してくださるということで進めていきますので、ぜひとも、また今後とも活発な議論をしていただいて、来年の３月には非常に具体的に実施できるような報告書になっていけばいいなと思っております。

本日はありがとうございました。無事にこの会が終わりました。

最後に、実は副委員長から、子ども・青少年協議会に関連した調査について情報提供がございますので、その情報提供を伺って、終わりにしていきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員　皆さん御承知のとおり、今年の６月に子ども基本法ができて、来年４月からこども家庭庁が運営されるようになっております。その中で、子ども基本法の中にも、あるいはこども家庭庁設置法の中にも書いてあるんですけれども、当事者である子どもの声をきちんと反映させていくことが大事だというのが明文化されております。

それを受けて、内閣官房こども家庭庁設立準備室でこの８月にこども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する検討委員会、ちょっと長ったらしいんですけれども、子ども政策において当事者である子どもの声をどう反映させるのかという検討委員会が設置されました。国としては国の政策に子どもの声を反映させるための在り方を検討するという名目での検討委員会なんですが、私が一応その委員の７名の中の１名に今回選んでいただいております。

国としてやるのは初めての中で、国内で結構そうやって子どもの意見表明参加に先進的に取り組んでいる自治体がある中で、世田谷区が、やはりこの協議会もそうなんですけれども、取り組んできているので、その先進事例の一つとして世田谷区を取り上げたいというふうに事務局のほうから言われています。私が今ここに関わっていますので、世田谷区のいろんな取組について、いいことだけではなくて、いろいろここが難しかったとか、課題とかというところも含めてですけれども、ちょっとそこはいろんな形で情報提供させていただきたいと思っております。

どういう形で出すとかは、いずれにしても区の担当者の方と事前に協議した上で、こういう形で出しますよと了承を得たものが最終的に出ますけれども、いろんな形でこの世田谷区の取組も国からも注目されているというところでありますので、そこの検討委員会のほうもぜひ注目していただければと思っております。

○会長　ありがとうございました。

内閣府が本当に注目しておりまして、実は世田谷区のこの協議会の委員であった先生がもう１人、工学院大学の安部芳絵先生もその委員の中にいるんです。この世田谷区の協議会から２人も出している。国を動かす組織になっているということです。ぜひ活躍していただければと思います。よろしくお願いします。

以上で本日の議事は終了となります。ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しします。

〇嶋津子ども・若者支援課長　会長、委員の皆様、誠にありがとうございました。

事務局からは、次回の協議会の予定についてお知らせいたします。今、会長からもお話しありましたけれども、次回の第５回協議会は12月16日金曜日午前10時からの開催を予定しております。開催通知は改めてお送りさせていただきます。また、10月、11月、これもお話しありましたが、小委員会の日程は、机上にお配りしたとおり、それぞれ10月13日と11月15日に開催して、またここで副会長を中心に詳細を詰めていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、本日は以上をもちまして令和３年－４年度期第４回子ども・青少年協議会を終了いたします。ありがとうございました。

午後４時27分閉会